

ブルースワット (1994～1995)

メディア TV

ジャンル 特撮 ヒーロー

製作国 日本

色彩 Color

1994/01/30 ~ 1995/01/29

TV放映 日曜日
8:00～8:30
テレビ朝日

【解説】

ひそかに、だが確実に、エイリアンによる地球侵略は開始されていた。彼らは重要人物に対する“インヴェード”を組織的に行うことによって人類社会の中枢を握ろうとしているのだ。

人類は対エイリアン組織・ブルースワットを極秘裏に結成するが、正式な発足の直前にエイリアンの侵入を受け、地質学研究所に偽装した本部基地毎壊滅してしまう。生存者はわずか3名。元ロス市警SWATチームのサラ、元国連職員のシグ、そして元スポーツ大会荒らしのショウ。彼らは情報収集の窓口として探偵事務所ブルーリサーチを構え、セイジ、スマレの協力を得てエイリアンに対するゲリラ戦を開始した。やがて明らかになるスペースマフィアとシグとの因縁、そして物語はシグの息子ザジを軸に展開していく。

いわゆるヒーローものの要素に満ちた前作『ジャンパーソン』から一転、比較的高い年齢層をターゲットとしてエイリアンと人類との戦いをリアルに描いた意欲作が本作『ブルースワット』である。

実際にありそうな兵器類、頭部と胸部だけがカバーされ他の部位はむき出しのアーマー、どこからともなく現れるのではなくコンテナを用いて行われる武器の運搬、同一種族であることを考慮して形状が統一されたエイリアンのデザインなど、ともすると地味な印象を受ける設定が効果的に使用され、ドラマに厚みを加えることに成功している。

また、高年齢層を対象としたリアル路線の設定は商品展開にも反映され、特にショウ達の基本武装である専用銃ディクテーターの薬夾排出機構を再現した電動ブローバックモデルのサイズは、大人の手で丁度というものであった。

ゴールドプラチナムの出現、ハイパーショウの誕生、スペースマフィアの支配者クィーンの登場といった、低年齢層を意識した路線変更がシリーズ後半に行われたものの単なる勧善懲悪に終わることはなく、“絆”を重視した基本コンセプトは最後まで貫かれた。

【クレジット】

監督

辻理
小西通雄
箕輪雅夫
三ッ村鐵治
石田秀範
折田至

アクション監督

山岡淳二

(ジャパン・アクション・クラブ)

プロデューサー

梶淳
堀長文

(テレビ朝日)

(東映)

原作

八手三郎

脚本

宮下隼一
扇澤延男

	鷺山京子	
	曾田博久	
	小林靖子	
	浅香晶	
	中野睦	
	鈴木康之	
キャラクター製作	レインボー造型企画	
キャラクターデザイン	野口竜	
撮影	浄空	
特撮監督	尾上克郎	
美術	野尻均	
造型	前澤範	
編集	菅野順吉	
音楽	若草恵	
アクション	横山一敏	
	竹内康博	
	今井喜美子	
	橋本恵子	
	藤田健次郎	(ジャパン・アクション・クラブ)
特技・操演	鈴木昶	((株)特撮研究所)
特技・撮影	高橋政千	((株)特撮研究所)
特技・美術	佛田洋	((株)特撮研究所)
出演	正木蒼二	鳴海翔／ショウ
	白鳥夕香	美杉沙羅／サラ
	土門廣	広瀬剛／シグ
	田中優樹	宇佐美星児／セイジ
	干潟智子	麻生すみれ／スミレ
	佐野茂	ザジ
	横山一敏	鳥羽勝也
	長門美由樹	Q
	笠原竜司	ジスプ
	野村佑香	遠藤敦子
	宮野翔太	林孝
	深沢光明	河合大
	森みつえ	奥山梨奈
	佐藤信一	ゾドー
	山本修一	リーガ
声の出演	寺杣昌紀	ゴールドプラチナムの声
	小峰裕一	ジスプの声